

編集後記

ロシアのウクライナ侵攻から1年が経過しましたが、今後の状況は不透明です。新型コロナウイルス感染症も3年経過しました。新型コロナウイルス感染症は、感染症法で2類相当から5類へ移行することが決まりましたが、医療機関ではこれまでと同様に継続して対応することになりそうです。

表紙は「仙巖園と桜島」です。有里敬代先生から「吉野公園のなごみの庭の梅」をいただきました。まさに春らしい風景です。

論説と話題では、西蔭理事からの第39回市民健康まつりの報告です。3年ぶりの現地開催は24のコーナーに、1317名の参加者でした。令和4年度第53回桜島爆発総合防災訓練については米盛理事からの報告です。トピックスでは、防火活動優良事業所表彰を受賞された崎元病院と米盛病院の2施設からの投稿です。日頃の努力の賜物だと思います。おめでとうございます。

学術は、2題です。鹿児島医療センター救急科の田中秀樹先生からの「急性期肺塞栓症に対する当院の治療選択の現状と将来の展望」は、2つの単施設研究の結果を報告していただきました。南風病院肝臓内科の柴藤俊彦先生からは「肝機能障害を契機に肝生検にて診断したサルコイドーシスの1例」を報告していただきました。

医師会病院だよりは、麻酔科部長日高帯刀先生から報告していただきました。医師会病院は、会員の皆様からのご紹介で運営しております。今後ご紹介いただきますようお願い申し上げます。

随筆・その他では、切手が語る医学【No.268】を古庄弘典先生から寄稿していただきました。

栗博志先生の連載「歌と写真で綴る薩摩の脇道(6-2)」と濱田博文先生の「『記・紀』により、封印された邪馬台国と葬られた出雲の国が、今蘇える(4-2)」は、歴史的検証に興味がそ

そられる内容です。

リレー随筆は、今村総合病院初期研修医の大藪明典先生から「素晴らしき東北の世界」を投稿していただきました。東北地方への旅を是非してみたいと思います。

令和4年度鹿児島市医師会学校医会幼稚園・保育園部会研修会では、鹿児島県こども総合療育センター所長外岡資朗先生に「幼稚園・保育園における発達障害児の気づきと支援」を講演していただき、82名の参加者が熱心に聴講されていました。

各種報告・会の動き・附属施設等利用状況・受診状況はご覧いただけましたら幸いです。

鹿市医郷壇は兼題が「絵馬」でした。多数の秀作を投稿いただき有難うございました。

2023年1号より鹿児島市医報がA4版フルカラー化となりました。紙質にもこだわり、印刷会社も数社から見積もりをいただき出費を抑え、広告料が増えてリニューアルができました。会員の皆様に有益となる情報を多数掲載したよりよい医報を発行していきたいと考えております。宜しくお願いします。

(編集委員長 帆北 修一)

